

ANAグループは、2007年4月にCSR推進室を新設して、グループを挙げて社会、環境との持続的な共生への取り組みを通じた企業価値の一層の向上に努めています。

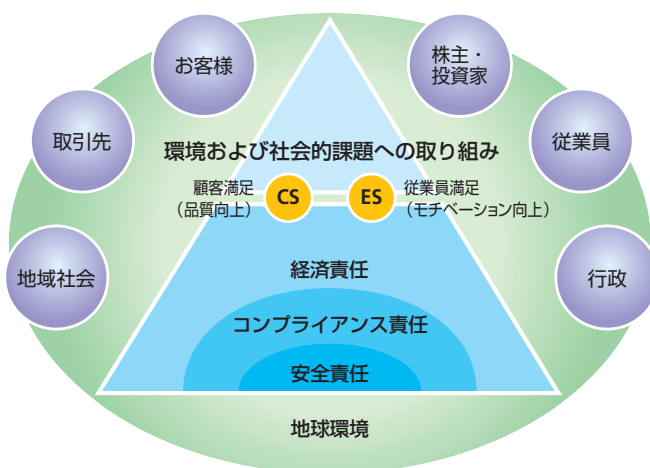
CSRの基本的な考え方

ANAグループにかかわりのあるステークホルダーは、お客様、株主・投資家、取引先、地域社会など、さまざまです。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、社会との共生を図りつつ、企業価値を向上させ、ステークホルダーの皆様に対する責任を果たしていくことが、ANAグループのCSRの基本です。

ANAグループでは、役職員一人ひとりが「ANAグループ理念」を実現するために安全責任を中核として行動し、ステークホルダーの皆様に関心をお届けし、信頼を得ることができるようにCSRを実践しています。

1. 安全責任、コンプライアンス責任を果たすことを通じて経済責任※を果たす(ベースライン)。
2. 品質向上と従業員価値の増大を図るため、CS (Customer Satisfaction=顧客満足)とES (Employee Satisfaction=従業員満足)を向上させる。
3. さらに、社会的課題、環境問題などの解決に取り組む。

※ ここでいう経済責任とは、リスクマネジメントを徹底した有効で効率的な事業運営を行う責任であり、コンプライアンス責任と合わせて内部統制システムの充実を意味しています。



CSRの推進体制

従来のCSR推進体制を見直し、ANAグループ経営におけるCSR推進の統括部署として「CSR推進室」を、2007年4月より新設しました。また、当該組織の下に内部統制および環境・社会貢献にかかわる各部署を集約するとともに、同年8月に会議体を再編し、社長を総括とするCSR推進会議を最高意思決定機関と位置づけ、ANAグループのCSR推進体制を整備しています。

ANAグループでは、ステークホルダーとのコミュニケーションを充実させるとともに、本業を通じた社会への貢献をCSRの基本としており、特別な活動を展開するのではなく、これまで取り組んできた活動についてより誠実に推進していきます。それにより社会との持続的な共生を図りつつ、企業価値を向上させ、ステークホルダーに対する責任を果たしていきます。

取り組みの詳細についてはCSRレポートを毎年秋に発行し、ウェブサイト上でも公開しています。

(<http://www.ana.co.jp/ana-info/ana/csr/index.html>)

外部からの評価

FTSE4Good Indexの対象銘柄に採用

ANAは、環境保全に向けた積極的な行動、ステークホルダーとの建設的な関係構築、人権擁護に対する取り組み、贈収賄防止に対する取り組みといった社会的責任に関するFTSE4Good Index※



の基準を満たした企業として、2006年9月からFTSE4Good Indexの対象銘柄に継続して採用されています。

※ FTSE4Good Index : 国際的な社会的責任投資 (SRI: Social Responsible Investment) の2大指標の一つ。FTSE社 (英国 Financial Times社とロンドン証券取引所の合併会社) が世界中の企業を対象にして行う、業績・財務面を超えた企業のパフォーマンスを評価する指標。

安全への取り組み

ANAグループ安全理念

ANAグループでは、「ANAグループ安全理念」を制定し、「安全は経営の基盤であり、社会への責務である」と定め、航空運送事業で果たすべきANAグループの責務を明らかにしています。

そしてこの理念の中で、安全を堅持するというANAグループの文化を受け継いで、安全を維持し高めるための普遍的で基本となる3つの要素、「会社の役割と責務」「組織の役割と責務」「従業員の役割と責務」について、全役職員に明示しています。

ANAグループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である

私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある誠実な
行動により安全を追求します

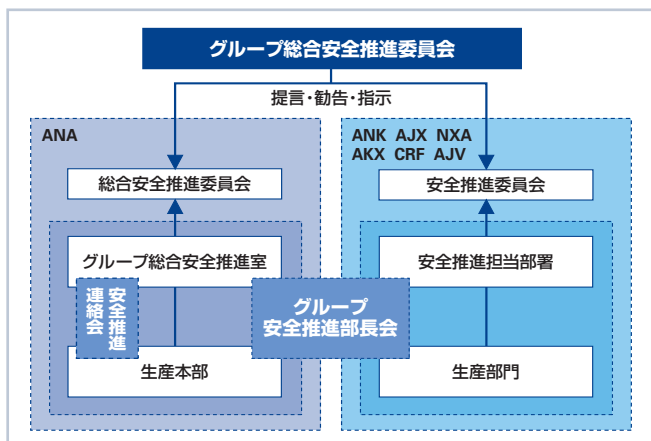
安全マネジメント体制

2006年10月の改正航空法を含む運輸関係事業法の改正、施行により、航空各社に安全マネジメント体制の構築を目的として、輸送の安全確保に関する新たな制度と内部安全監査制度が義務づけられました。

それに伴いANAグループは、輸送の安全確保のための考え方を明確にした「安全管理規程」を最上位規程として新たに定め、安全に対する強い権限を持つ「安全統括管理者」を設け、SMS※1の取り組みを統括的に管理・推進する体制を構築しています。ANAグループの各航空会社では、安全推進委員会の委員長がこの任に当たっています。

また、安全にかかわる重要事案について情報を共有し、安全に関する方針を定め、各社に対して提言、勧告と指示を行う最高の審議・決定機関として、グループ総合安全推進委員会を設置しています。

安全に関するグループ運営 <安全推進組織・会議>



さらにANAグループは、2002年3月期より内部安全監査制度 SAFER※2を導入しており、当期からは監査員の資格制度と養成訓練をANAグループの航空会社共通とするなど、より質の高い監査を目指しています。

このような体制の下、国際的に認知された安全監査プログラムであるIOSA※3に、ANAが2004年に日本の航空会社として初めて登録を果たし、このほかANAグループにおいてもエアーニッポン（株）が登録されています。IATA（国際航空運送協会）への加入要件でもあるIOSA登録は、安全に関する国際標準を満たしている証となっています。

※1. Safety Management System :

航空会社の経営トップから現場部門まで一丸となって、航空輸送のすべての分野で、今までの再発防止型の活動に加え、組織的に未然防止型の活動を実施していくためのしくみ。

※2. Safety Evaluation and Review Program

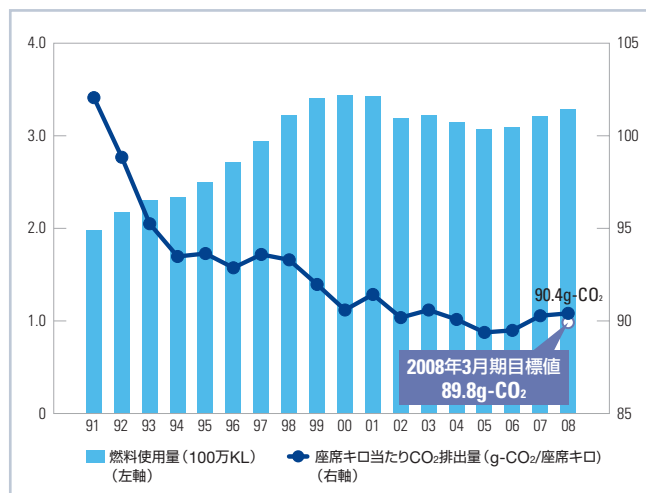
※3. IATA Operational Safety Audit

環境保全活動

地球温暖化対策

ANAは「人と地球を考える」をキャッチフレーズに、地球環境問題が重要な経営課題であるとの認識の下、早くから環境対策に取り組んできました。「ANAエコロジープラン2003～2007」で設定した「2008年3月期の座席キロ当たりのCO₂排出量を、1991年3月期対比で12%削減する（＝座席キロ当たり89.8g-CO₂まで削減）」という目標に対しては、最終年度に当たる2008年3月期で11.4%削減（＝座席キロ当たり90.4g-CO₂）となりました。

ANAグループ提供座席キロ当たりのCO₂排出量の推移



2008年5月22日には、京都議定書の約束期間に入ったことも踏まえて、新しい中期環境経営計画「ANAエコロジープラン2008～2011」を発表しました。

特にCO₂排出総量目標の設定は、世界の航空会社の中でもANAが初めてとなります。

地球環境問題を経営の最重要課題の一つとし、「環境リーディング・エアライン」の実現を目指す、ANAグループの強い姿勢を示すものです。ネットワークの見直し、機材の適正配置、新機材への更新、環境負荷の低い運航方式、エンジン水洗など、今後も社内横断的にあらゆる対策を実施していきます。

一方で、社会的な関心が高まってきている排出量取引制度、バイオ燃料、カーボンオフセットなどについては、航空業界全体の課題として、関係する国際機関、省庁とも連携しつつ、今後も調査・研究を進めていきます。

また、今年で3年目となる「e-flight」を継続実施し、お客様と空の上から地球環境を考える活動にも取り組んでいます。

「ANAエコロジープラン2008～2011」の概要

環境リーディング・エアラインを目指して 業界初・CO ₂ 総排出量の目標を設定		
地球温暖化対策	航空機燃料	原単位(燃料効率)： 10%削減 国内線・国際線の有償輸送トンキロ*当たりCO ₂ 排出量を、 2012年3月期において2007年3月期対比で10%削減 (1991年3月期対比では約25%削減) CO ₂ 総排出量： 470万トン以内 国内線2009年3月期～2012年3月期のCO ₂ 総排出量を年 平均470万トン以内に抑制
	事業所エネルギー	全事業所計 年1%削減(原単位当たり)
大気汚染対策	航空機	リース機を含め全機ICAO排出ガス基準適合
	地上車両	ハイブリッド・電気自動車の積極導入
騒音対策	リース機を含め全機ICAO騒音基準チャプター4適合	
省資源化促進	廃棄物削減、営業用紙5%削減、Closed Recycle：全事業所への展開	

※ 本年よりIATAスタンダードに合わせるとともに、貨物輸送の環境影響も含めて評価

環境社会貢献活動

<国際環境絵本コンクール>

2003年にスタートした「私の青空」国際環境絵本コンクールは、次世代を担う子供たちに「環境、自然、生き物、資源を大切に作る心」を伝えるとともに、「家族や友人同士で環境について話し合う」機会を提供することを目的に継続開催しています。2007年の第5回の絵本コンクールには、海外8カ国を含め、約500点の応募があり、大賞受賞作品「いちまいのセーター」は、日本語のほかに英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語、フランス語、ドイツ語に翻訳されています。

<全国の空港周辺の森づくり>

2004年から10年計画で着手した「私の青空」森作りは、ANA

が就航している国内50空港周辺を中心に植林を進める活動で、現在までにタイ、中国も含めて、国内外20カ所以上で実施しました。

<サンゴ再生プロジェクト>

「チーム美らサンゴ」は危機的な沖縄県恩納村のサンゴ群集を回復・保護し、サンゴ生態系の再生を支援することを目的に2004年に発足し、今年で5年目を迎えています。このサンゴ再生プロジェクトは、ANAをはじめとする沖縄県内外の13企業が参加し、環境省と沖縄県などの行政も後援する官民一体型の環境保全活動です。日本サンゴ礁学会が定めた「造礁サンゴの移植に関するガイドライン」に沿って、春と秋に年4回、養殖されたサンゴをボランティアダイバーの手により海に植えつけています。



C.W.ニコルさん、卓球の福原愛さん、茨城ゴールデンゴールズの片岡安祐美さんが審査員として参加。写真中央は、大賞を受賞した石川恵美子さん



「私の青空」松山空港・宇和島真珠の森



沖縄県恩納村「私の青空」美らサンゴ礁再生活動